

## ⑯ 公開特許公報 (A)

平1-151636

⑮ Int.Cl.

E 04 B 2/82  
F 16 M 7/00

識別記号

厅内整理番号

L-6951-2E  
B-7312-3G

⑯ 公開 平成1年(1989)6月14日

審査請求 有 発明の数 1 (全6頁)

⑯ 発明の名称 調節具と取付け金具の組合せ装置

⑯ 特願 昭62-311366

⑯ 出願 昭62(1987)12月9日

⑯ 発明者 中田 正利 石川県能美郡根上町下ノ江町末174番地

⑯ 出願人 コマニー株式会社 石川県小松市工芸団地1丁目93番地

⑯ 出願人 株式会社内山洋行 京都府中央区京橋1丁目1番10号

## 明細書

## 1 発明の名称

調節具と取付け金具の組合せ装置。

## 2 特許請求の範囲

(1) 床レールに内嵌される大きさの、縦断面下向き開口のコ字形をなす小部品の台脚の、上面部中央に丸穴を下面部へ貫き開口させ、上面部の丸穴上にナットを配し、堅固なネジボルトをナットに締合しナットを固定し、ネジボルトを下面部から僅かに突出し状態になし、下面部との間に僅かな隙間を存してネジボルトを回転自在に固定し、一方、前記台脚の上面部とは同一形の板体の中央より、板体の既キシ突出部を上方に向けて突出し上下に開口させた支承板を、上方突出部の前記ネジボルト上にもたらし、ネジボルトの上端部に既キシ突出部を下端部から締合してなる。

調節具と、

(2) 前記調節具の支承板を底面部となし、その各辺部を直角に内方に折り曲げて上方開口の箱

体を形成し、箱体の各側面部の開放先端部を外方面角に、前後乃至左右各片対称に夫々小巾に折り曲げて、構成して片々バネルとう載片となし、箱体の各背面部及び底面部に之してタフドの下端部を内嵌させるものとした、取付け金具とよりなる、

調節具と取付け金具の組合せ装置。

## 3 発明の詳細な説明

## 技術分野

この発明は、可動間仕切りの壁バネル(以下バネルとする)を設定するにおいての高低調節の技術と、バネル及びスタフド(間柱)の支承の技術に係る。

## 背景技術

可動間仕切りにおいては、バネルやバネルを保持するスタフドのレベル(水準)を同一に調節するのが、基本事項であり、施工の成否はこの調節の如何に係つてるとされる。同一にレベルを整えて設定されたバネルが、堅固にその状態を保ち続けることが、その次に来る課題

である。

従来、このレベルの調節法として、床レールに調節具(高低アジャスター)を内嵌させ、トランシット等により測定し、各調節具のレベルを同一にする。そして同一レベルになつてゐる調節具のアジャストボルトの頭等に、横長材の受け兼用巾木材をわたして調節具を載い且つ床レールに嵌め連結し、ベキル横巾間に配してある調節具上にスタフドを立て、ベキルをスタフドに係止させつゝ又前記受け兼用巾木材でその下端面を支承させることができてゐる。床面は僅かながら凹凸があり、床レールもベキル等の重量を受けて僅かながら變形を示るので、一度レベルの調節をして同一レベルを計測して前記のようにベキル等をとりつても、必ずと音つてよい程レベルに差を生ずるのであつて、レベルの微調整が必要である。

しかるに微調整乃至再調節をするためには、再びベキルを取りはずし、スタフドも取りはずし、受け兼用巾木材を取りはずして調節具のア

ジャストボルトの頭を露出させ、頭を回旋する等してなされるのである。これらは間仕切りのとりこわしと新造という二つの作業を要することになるので、一般には低い方へ差しこみを入れる等の便宜的手段が用いられる。即ち、臨機応変、臨時箇所で調節具を用いることは、従来のものにおいては行なうことが出来なかつた。

又、従来の方法において、ベキルの下端面を支承する受け兼用巾木材は、横断面下あきのはく字形の横長材が用いられ、その上方突出部でベキルの前後動を規制し他の上面部でベキルを支承するのであるが、調節具の数が少ければ前記他の上面部でのベキルの支承が弱くなり、調節具を数多く受け兼用巾木材の下に配すれば、前記レベルの統一が益々困難となる。

本発明は、可動間仕切りにおけるベキルやスタフドの同一レベルの形成と、下端面部での堅固な支承を、施工容易にもたらして、如上の従来の装置の欠点を解消したものである。

#### 発明の開示

本発明は、レベルの調節具としては、床レールに内嵌する横断面下向き開口のコ字形をなす小部品の台脚上にネジボルトを上方突出部にて、台脚上のナットをネジボルトに固定し、ネジボルトと台脚との間に僅かな隙間を存して回転自在に台脚に固定し、棒体の離ネジ突出部と一緒になつてゐる平板の支承板とネジ連結したものとなし、レベルの調節には、この支承板へのスタフド等の押圧又はこの支承板を底面部とする上方開口の箱体の取付け金具へのスタフドやベキル等の押圧と前記ナットの回転により行ない、

スタフドやベキルの下端部の支承を棒体の離ネジ突出部と一緒になつてゐる支承板又は取付け金具によつてなすことにしたものである。

#### 発明を実施するための最良の形態

本発明をより詳細に説述するために、以下添付の図面によつて説明する。

第1図及び第2図は、本発明の装置1を示し

ている。即ち、本発明は、調節具2と取付け金具3とよりなる。

調節具2は、床レール4に内嵌する形をなす、横断面下向き開口のコ字形の小部品である台脚5に、ネジボルト6及び支承板7をとりつけてなるものである。ネジボルト6は堅固なものを用いる。さて、前記形状の台脚5において、その方形をなす上面部8の中央に、丸穴9を下面部10迄貫き開口させる。そして前記ネジボルト6の下端部を丸穴9を通して台脚5の下面部10より僅かに突出させるが、その際上面部8上にナット11を置き、これとネジボルト6を締合し且つ上面部8上でネジボルト6にナット11を固定したものとし、前記ネジボルト6の下端部の突出を、下面部10との間に僅かの隙間12を存して、回転自在に固定する。ネジボルト6は台脚5上に上方突出しなつてゐる。隙間12を大きくとると、ネジボルト6の安定が損われる。

支承板7は、第3図及び第4図に見る如く、

前記台脚5の上面部8とは△同形の方形状平板であり、その平板中央に、上方へ突出する棒部13の内部にネジを施した離ネジ突出部14を上下開口状態に設けている。

前記台脚5にとりつけたオジボルト6の上端部に、この支承板7を、離ネジ突出部14を上向けに傾斜したものが、本発明の調節具2である。この調節具2の支承板7に、スタッフ15やバネル16の下端面17を支承させ、スタッフ15やバネル16の重量により、ナット12を台脚5の上面部8に押圧して、前記棒部13を有してナット12と共に動する離ネジ突出部14の動きを止める。ここでナット11をスパナ(図示せず)等の治具で回転し、オジボルト6を離ネジ突出部14内を上下させることにより、支承板7のレベルを調節するのである。

次に取付け金具3は、前記支承板7をそのまま底面部18として一体に用いるもので、底面部18中央に上方へ突出する離ネジ突出部14

を同様に有する。更にこの底面部18の前記方形の各辺部19を直角に内方へ夫々折り曲げた形狀に、上方開口状の箱体20を形成し、箱体20の各側面部21、21、21、21の開放先端部を外方直角に、前後乃至左右片対称に小巾に夫々折り曲げて、横桿取付け片22、22及びバネルとう板片23、23となし、前記側面部21の内壁24、24、24、24及び底面部18に接して箱体20内に、スタッフ15の下端部が内嵌される大きさとしたものである。床レール4やスタッフ15及びバネル16等は公知のもので、横桿25も公知のものである。

スタッフ15やバネル16及び横桿25は、第5図及び第6図のように、本発明の装置1にとりつけられる。即ち、予め設置されている床レール4のスタッフ15とりつけ部分に、箱体20を上にして調節具2の台脚5を内嵌し、手等で取付け金具3を保持してナット11を回転させ、各調節具2の取付け金具3、3...。

のレベルを調節し、スタッフ15を取付け金具3に立てるにおいて、スタッフ15の下端部を箱体20の各側面部21の内壁24、24、24、24及び底面部18に接させて内嵌し、垂直に立てる。次に調節具2、2にわたして、取付け金具3の横桿取付け片22、22に横桿25を連結、固定する。横桿25を測量することにより、調節具2、2...のレベルが同一に保たれているか確かめることが出来る。

微調節は露出している前記ナット11をスパナ等で回して、容易になし得る。次にバネル16を、その下端面17部を取付け金具3のバネルとう板片23、23に載せ、一のスタッフ15の側端部26にバネル16の側部27を外嵌させ、バネル16を横桿25上に載せて垂直に立て、他のスタッフ15の側端部26に前記バネル16の他の側部27を外嵌してなる。

図に見る実施例では、バネル表板28、28を背向いに対向させてバネル16を形成しており、横桿25に下端部29を接せしめ、且つバ

ネルとう板片23、23上に載っている。

このようにして、次々とバネル16を本発明の装置1上に積てこそで、上から下迄一面に繋うクローズドな大壁面仕切りとしたり、人の身丈け程の高さのオープンなくドア等を有しないローバーテイションとなしたり、バネル16を一枚又は少枚枚用いて衝立とすることが出来る。あと巾木30をとりつけて仕上げとする場合がある。

第7図に見る従来の装置31によれば調節は、アジャスター32の調整ボルト33の頭34を回転してなすのであるが、この頭34は受け兼用巾木材35で蔽われており、この上にスタッフ15やバネル16乃至バネル表板28が建てこんでいかれるので、一旦建てこむと、前記レベルの調節には、再びスタッフ15やバネル16を取りはずし、受け兼用巾木材35を除けて調整ボルト33の頭34を露出させなければならない。

しかるに本発明の装置1によれば、前述のよ

うに、臨時居所でナフト11を回転させてレベル調節をすることが出来、例えば巾木30をとりつけた場合でも、この巾木30を引きはぐことにより支障なく行なうことが出来る。

本発明の装置1では又、受け兼用巾木材35を用いないが、スタフド15乃至バネル16等従来のものにそのまま用いることが出来、取付け金具3の働きは従来の装置31におけるスタフド15やバネル16等の支承度より格段に優れている。例えば、従来の装置31では、調整ボルト33の先端でスタフド15等の支承部をし、この先端にかぶせた受け兼用巾木材35によりバネル16を受けるのであるが、本発明の装置1では、ネジボルト6の先端でスタフド15等を支承するのではなくて、ネジボルト6が締合している棒体13の離ネジ突出部14と一緒になつてある箱体20及び横桿25で支承させているからである。

本発明の装置1を用いた場合の施工の容易さも、従来の装置31と比し格段に優れている。

#### 産業上の利用可能性

本発明は、可動同仕切りにおける基本技術であるレベルの調節及びバネル16等の支承について、従来の装置31の欠点を解消し、クローズド大壁同仕切りは勿論ローバーティションや街立にも用いられ、産業上の利用可能性は極めて高い。

#### 4 図面の簡単な説明

第1図は、実施例による本発明の装置1の縦断面図であり、第2図は、同、その構成を示す斜視図であり、第3図は、同、取付け金具3の平面図であり、第4図は、同、その側面図であり、第5図は、同、実施状態を示す、スタフド15の締中心の前後部における一部省略の縦断面図であり、第6図は、同、横桿取付け片22の横中心の左右部における一部省略の縦断面図であり、第7図は、従来の装置31の縦断面図である。

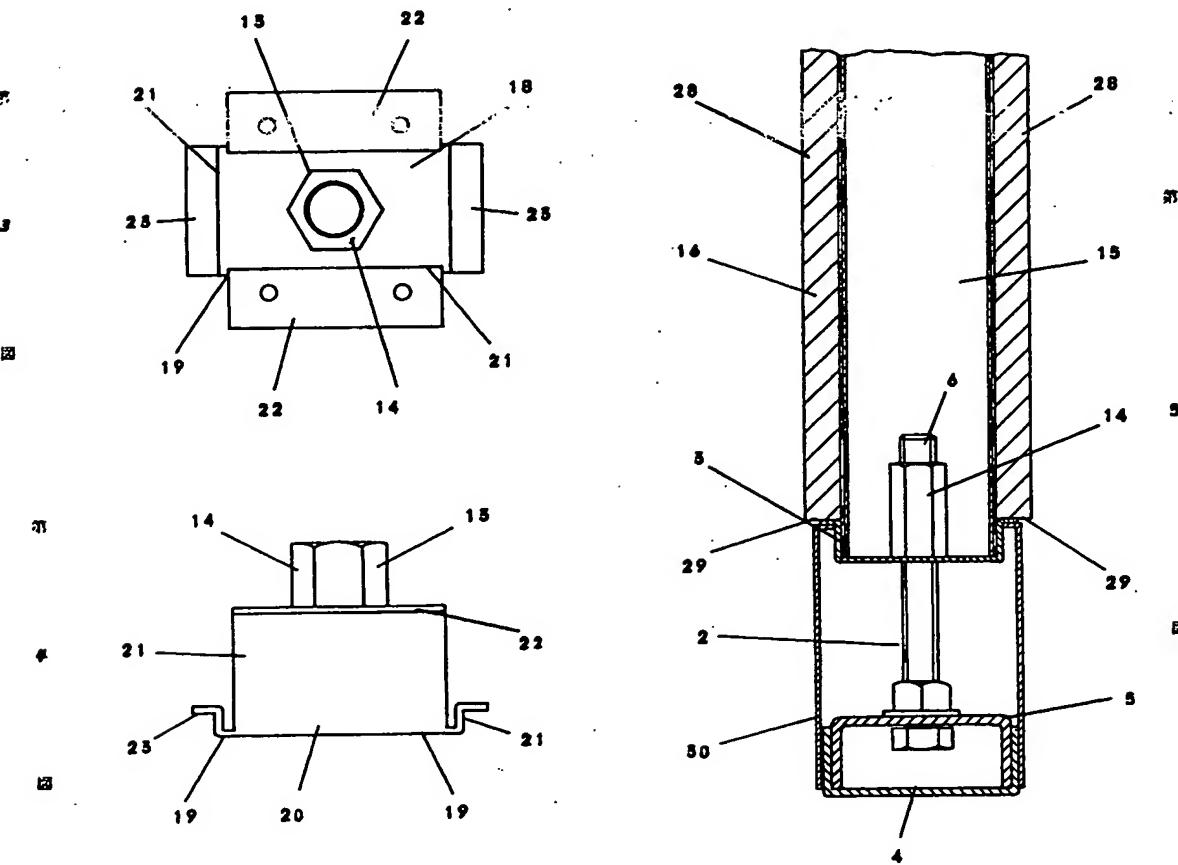
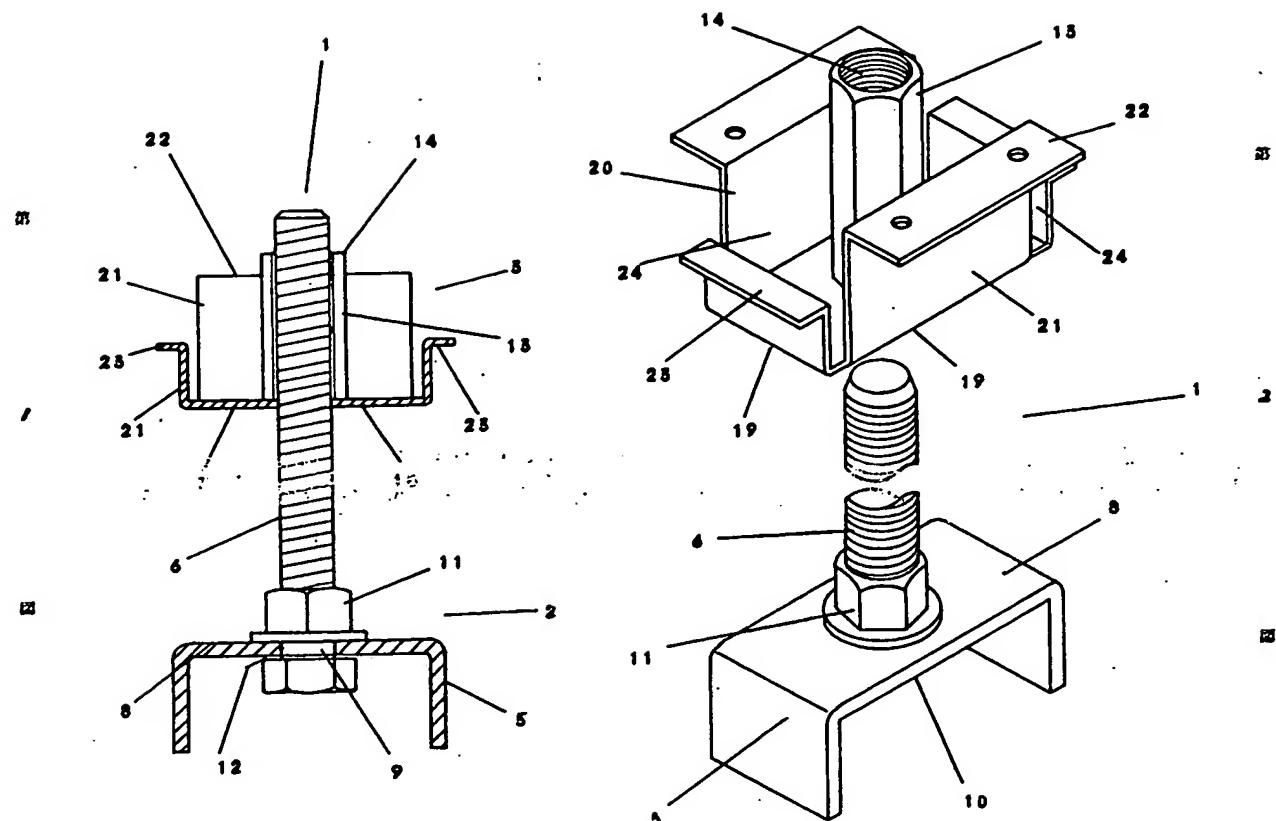
#### 符 号

1... 装置 2... 調節具

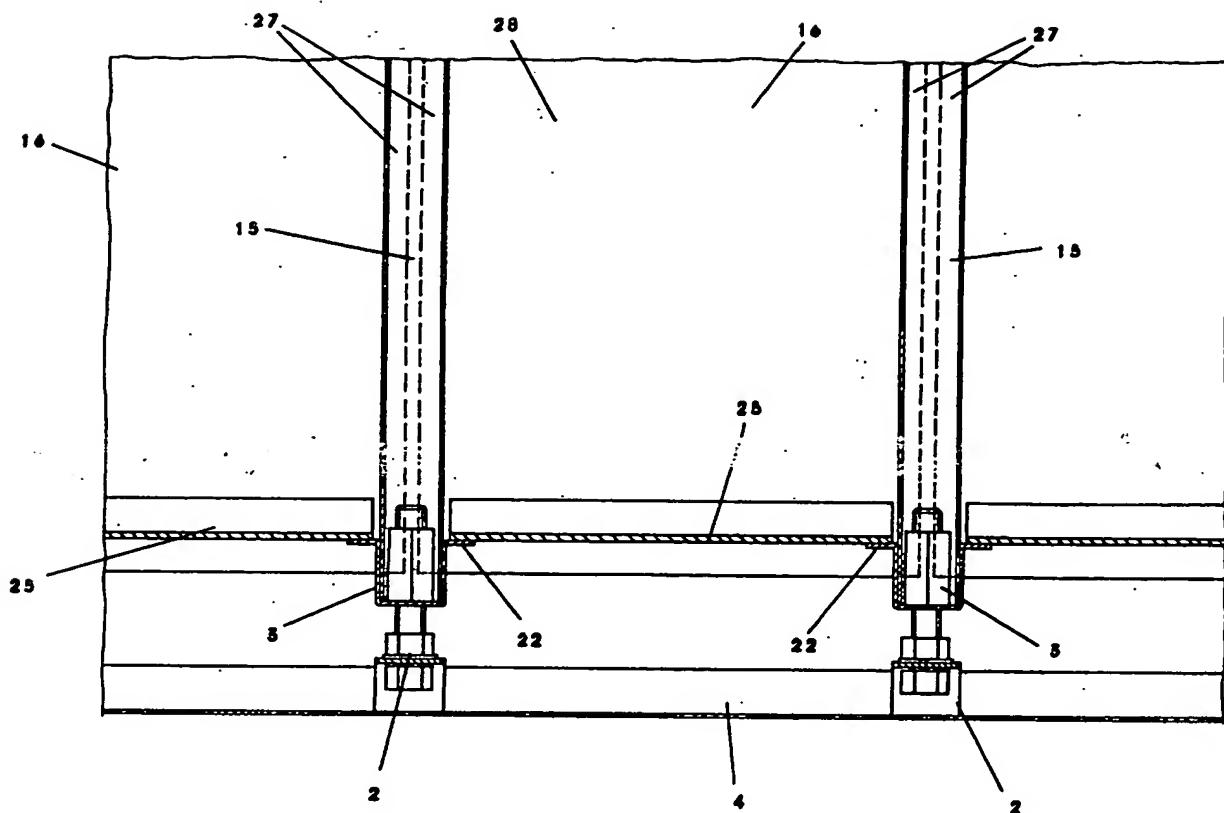
- 3... 取付け金具 5... 台脚
- 6... ネジボルト 7... 支承板
- 8... 上面板 10... 下面板
- 11... ライント 12... 確認
- 13... 棒体 14... 離ネジ突出部
- 18... 底面部 19... 各辺部
- 20... 箱体 21... 各側面部
- 22... 横桿取付け片 23... バネルとう載片

以 上

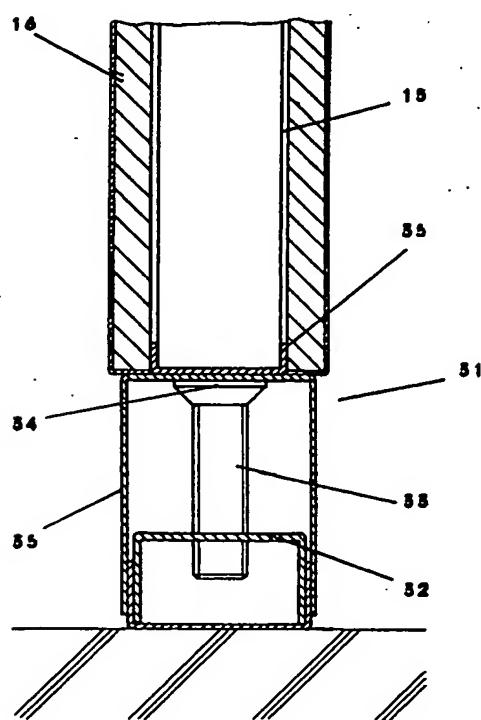
特許出願人 コマニー 株式会社



第 6 図



第 7 図



**PAT-NO:** **JP401151636A**

**DOCUMENT-IDENTIFIER:** **JP 01151636 A**

**TITLE:** **COMBINATION DEVICE FOR ADJUSTER AND MOUNTING  
METAL  
FITTING**

**PUBN-DATE:** **June 14, 1989**

**INVENTOR-INFORMATION:**

<b>NAME</b>	<b>COUNTRY</b>
<b>NAKADA, MASATOSHI</b>	<b>N/A</b>

**ASSIGNEE-INFORMATION:**

<b>NAME</b>	<b>COUNTRY</b>
<b>COMANY KK</b>	<b>N/A</b>
<b>UCHIDA YOKO CO LTD</b>	<b>N/A</b>

**APPL-NO:** **JP62311366**

**APPL-DATE:** **December 9, 1987**

**INT-CL (IPC):** **E04B002/82, F16M007/00**

**ABSTRACT:**

**PURPOSE:** **To simplify panel installation work by projecting a threaded bolt from a pedestal fitted into a floor rail, with a clearance secured between the bolt and the lower surface part of the pedestal, and threadably engaging the threaded bolt with the internally threaded lug of a bearing plate to place**

the  
bearing plate on the pedestal.

**CONSTITUTION: A pedestal 5 having a U-shaped cross section and fitted into a floor rail 4 has a round hole 9 bored in the center of its upper surface part 8 and a nut 11 is placed over the round hole 9 in the upper surface part 8. A threaded bolt 6 inserted into the round hole 9 from the lower surface part 10 of the pedestal 5 is threadably engaged with a nut 11, with a clearance 12 secured between the bolt 6 and the lower surface part 10. An internally threaded lug 14 is projected from the upper surface of a bearing plate 7 bearing the lower end of a panel 16 and the threaded bolt 6 is threadably engaged with the internally threaded lug 14 so as to place the bearing plate 7 on the pedestal 5. Since a device 1 thus formed allows easy leveling adjustments through the rotation of the nut 11, the work of installing the panel 16 can be simplified.**

**COPYRIGHT: (C)1989,JPO**